

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-031558

(43)Date of publication of application : 06.02.2001

---

(51)Int.Cl.

A61K 7/48

A61K 7/00

---

(21)Application number : 2000-011280

(71)Applicant : KOSE CORP

(22)Date of filing : 20.01.2000

(72)Inventor : HATA TOMONORI  
HOSHINO HIROSHI  
UEHARA SHIZUKA

---

(30)Priority

Priority number : 11138581    Priority date : 19.05.1999    Priority country : JP

---

(54) SKIN LOTION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a skin lotion capable of enhancing the effects of usual bleaching agents and having stable and excellent bleaching actions.

SOLUTION: This skin lotion is specific in containing one or more of the following ingredients (A) and (B); (A) an extract of Myrciaria Dubia and (B) a bleaching agent. The extract of Myrciaria Dubia of the ingredient (A) in this invention is prepared by extracting fruits of Myrcaria Dubia, a plant belonging to the family Myrtaceae by using an extracting solvent.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-31558

(P2001-31558A)

(43) 公開日 平成13年2月6日 (2001.2.6)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テ-マ-ト\* (参考)

A 6 1 K 7/48  
7/00

A 6 1 K 7/48  
7/00

4 C 0 8 3

K  
X

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2000-11280 (P2000-11280)

(22) 出願日 平成12年1月20日 (2000.1.20)

(31) 優先権主張番号 特願平11-138581

(32) 優先日 平成11年5月19日 (1999.5.19)

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000145862

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72) 発明者 畑 友紀

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
一研究本部内

(72) 発明者 星野 拓

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
一研究本部内

(72) 発明者 上原 静香

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
一研究本部内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 皮膚外用剤

(57) 【要約】

【課題】 美白剤が本来有する効果を向上し、安定で  
且つ優れた美白作用を有する皮膚外用剤を提供する。

【解決手段】 次の成分 (A) 及び (B)

(A) カムカム抽出物

(B) 美白剤の一種又は二種以上を含有することを特徴  
とする皮膚外用剤。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分（A）及び（B）

（A）カムカム抽出物

（B）美白剤

を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【請求項2】 美白剤が、エンドセリン拮抗薬、グルタチオン及びその誘導体、システイン及びその誘導体、レゾルシン及びその誘導体、ハイドロキノン及びその誘導体、カロチノイド類、グラブリジン、グラブレン、リクイリチン、イソリクイリチン、アガロースオリゴサッカライド、ネオアガロピオース、ゴマ油及びエゴマ油から選ばれたものである請求項1記載の皮膚外用剤。

【請求項3】 美白剤の含有量が0.0001～5質量％である請求項2記載の皮膚外用剤。

【請求項4】 美白剤が、カンゾウ抽出物、カミツレ抽出物、カロチノイド類を含有する動植物抽出物、アスパラガス抽出物、エンドウ豆抽出物、エイジツ抽出物、オウゴン抽出物、オノニス抽出物、海藻抽出物、キイチゴ抽出物、クジン抽出物、ケイケツウ抽出物、ゴカヒ抽出物、コーヒー抽出物、コメヌカ抽出物、小麦胚芽抽出物、サイシン抽出物、サンザシ抽出物、サンベンズ抽出物、シラユリ抽出物、シャクヤク抽出物、センブクカ抽出物、大豆抽出物、茶抽出物、糖蜜抽出物、トマト抽出物、ビャクレン抽出物、ブナの芽抽出物、ブドウ抽出物、フロデマニータ抽出物、ホップ抽出物、マイカイカ抽出物、モッカ抽出物、ユキノシタ抽出物、ユーカリ抽出物、ヨクイニン抽出物及び羅漢果抽出物から選ばれたものである請求項1記載の皮膚外用剤。

【請求項5】 美白剤の含有量が乾燥固形分として0.0001～5質量％である請求項4記載の皮膚外用剤。

【請求項6】 カムカム抽出物の含有量が乾燥固形分として0.0001～5質量％である請求項1～5のいずれか1項に記載の皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、カムカム抽出物と美白剤とを含有する皮膚外用剤に関し、更に詳細には、カムカム抽出物と美白剤との組合せにより、色素沈着の発生を防止するなど皮膚に対する優れた美白効果を有する皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、乳液、クリーム、化粧水、パック、洗浄料、分散液、軟膏、外用液剤等の皮膚外用剤には、これらに所定の薬効を付与することを目的として薬効成分が加えられている。例えば、日焼け等により生じる皮膚の黒化、色素沈着により生ずるシミ、ソバカス等の現象を防止するために、アスコルビン酸やグルタチオン、ハイドロキノン等の美白剤が加えられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これら

の美白剤を含有した化粧品、外用医薬品等の皮膚外用剤では、美白剤の効果が十分でなかったり、あるいは、製剤中で変質するなどして所期の薬効が得られない場合があり、その改善が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、皮膚外用剤の薬効成分の効果を向上させるべく鋭意検討を行った結果、カムカム抽出物と美白剤を組み合わせれば、本来美白剤の有する作用が十分発揮されることを見出し、本発明を完成した。

【0005】すなわち、本発明は、次の成分（A）及び（B）

（A）カムカム抽出物

（B）美白剤

を含有することを特徴とする皮膚外用剤を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の（A）成分であるカムカム抽出物は、フトモモ科に属する植物であって、カムカム（学名 *Myrciaria Dubia*）の果実から、抽出溶媒を用いて抽出する。その調製法は特に限定されないが、例えば種々の適当な溶媒を用いて低温もしくは室温～加温下で抽出される。

【0007】抽出溶媒としては、例えば水；メチルアルコール、エチルアルコール等の低級1価アルコール；グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の液状多価アルコール等の1種または2種以上を用いることができる。好ましい抽出方法の例としては、含水濃度20～90vol%のエチルアルコールを用い、低温にて2～3日間抽出を行ったのち濾過し、得られた濾液をさらに5日間ほど放置して熟成させ、再び濾過を行う方法が挙げられる。

【0008】本発明の（A）成分であるカムカム抽出物の含有量は、乾燥固形分として好ましくは0.0001～5質量％（以下単に「％」で示す）であり、より好ましくは0.001～3％である。カムカム抽出物の含有量がこの範囲であると、本発明の効果がより良く発現する。

【0009】本発明の（B）成分である美白剤は、以下に示すものが好ましいものとして挙げられる。ここで、「誘導体」には形成可能な塩が含まれる。

【0010】美白剤として好ましいものとして、エンドセリン拮抗薬、グルタチオン及びその誘導体、N, N'-ジアセチルシスチンジメチル等のシステイン及びその誘導体、レゾルシン及びその誘導体、ハイドロキノン及びその誘導体、アスタキサンチン、ルテイン等のカロチノイド類、グラブリジン、グラブレン、リクイリチン、イソリクイリチン、アガロースオリゴサッカライド、ネオアガロピオース、ゴマ油及びエゴマ油等が挙げられ、これらの一種又は二種以上を適宜選択して用いることが

できる。

【0011】これらの美白剤のうち、特に好ましいものとしては、グルタチオン、アスタキサンチン、グラブリジン、エゴマ油が挙げられる。これらの各成分は、その起源について特に制約はなく、動物由来、植物由来、微生物由来、合成品のいずれであってもよい。また、その抽出方法、精製処理方法、製法等についても特に制約されない。

【0012】また、美白剤として他に好ましいものとして、カンゾウ抽出物、カミツレ抽出物、卵黄、オキアミ、サクラエビ、ニンジン等のカロチノイド類を含有する動植物抽出物、アスバラガス抽出物、エンドウ豆抽出物、エイジツ抽出物、オウゴン抽出物、オノニス抽出物、コンブ、マコンブ、ワカメ、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、マツモ、モズク、イシゲ、ハバノリ、コンブモドキ、フクロノリ、イワヒゲ、カゴメノリ、アナメ、スジメ、トロロコンブ、カジメ、ツルアラメ、ダービリアンタルティカ、チガイソ、エゾイシゲ、ラッパモク、ホンダワラ、オオバモク、ジャイアントケルプ等の褐藻類や、テングサ、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、トサカノリ、ツノマタ、トチヤカ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、ウスバノリ、ウシケノリ、アサクサノリ、フサノリ、カギノリ、ヒビロウド、カタノリ、ムカデノリ、マツノリ、トサカマツ、フノリ、イバラノリ、オゴノリ、カイメンソウ、ダルス、イギス、エゴノリ、コノハノリ、ヒメゴケ等の紅藻類や、クロレラ、アオノリ、ドナリエラ、クロロコッカス、アオアオサ、カワノリ、マリモ、シオグサ、カサノリ、フトジュズモ、タマジュズモ、ヒトエグサ、アオミドロ等の緑藻類等である海藻抽出物、キイチゴ抽出物、クジン抽出物、ケイケツトウ抽出物、ゴカヒ抽出物、コーヒー抽出物、コメヌカ抽出物、小麦胚芽抽出物、サイシン抽出物、サンザシ抽出物、サンベンズ抽出物、シラユリ抽出物、ジャクヤク抽出物、センブクカ抽出物、大豆抽出物、緑茶、紅茶、烏龍茶等の茶抽出物、糖蜜抽出物、トマト抽出物、ビャクレン抽出物、ブナの芽抽出物、ブドウ抽出物、フロードマニータ抽出物、ホップ抽出物、マイカイカ抽出物、モッカ抽出物、ユキノシタ抽出物、ユーカリ抽出物、ヨクイニン抽出物及び羅漢果抽出物等が挙げられ、これら

の一種又は二種以上を適宜選択して用いることができる。

【0013】これらの美白剤のうち、特に好ましいものとしては、カンゾウ抽出物、エイジツ抽出物、ヨクイニン抽出物、クジン抽出物、海藻抽出物、ケイケツトウ抽出物、ゴカヒ抽出物、サンベンズ抽出物、センブクカ抽出物、茶抽出物、糖蜜抽出物、ビャクレン抽出物、ブドウ抽出物、マイカイカ抽出物、モッカ抽出物が挙げられる。これらの抽出物は、その抽出方法、精製処理方法、製法等について特に制約されない。

【0014】本発明の(B)成分である美白剤の含有量

は、0.0001～5%が好ましく、より好ましくは0.001～3%である。抽出物を抽出液のまま用いる場合は乾燥固形分としてこの範囲であればよい。本発明の(B)成分である美白剤がこの範囲であれば、本発明の(A)成分であるカムカム抽出物と組み合わせた場合、製剤及び製剤中のカムカム抽出物に影響を及ぼすことがなく、経時安定性も良好で、高い美白効果を発揮させることができる。なお、これらは一種又は二種以上を組み合わせて用いることができる。

10 【0015】本発明の皮膚外用剤は、常法に従い、必須成分である(A)成分と(B)成分とを通常の外用組成物として知られる種々の形態に調製することができる。

【0016】皮膚外用剤の形態の例としては、特に限定されず、例えば、乳液、クリーム、化粧水、パック、洗浄料等のスキンケア化粧料、口紅、ファンデーション等のメーキャップ化粧料、軟膏、分散液、外用液剤等の医薬品などとしてすることができ、その剤型についても特に制限はなく、固型状、ペースト状、ムース状、ジェル状、粉末状、溶液系、可溶化系、乳化系、粉末分散系、多層

20 状とすることができる。

【0017】また、本発明の皮膚外用剤には、上記(A)、(B)成分以外に、必要に応じて本発明の効果を損なわない範囲で、通常、化粧料や医薬部外品、外用医薬品等の製剤に使用される成分、すなわち、水(精製水、温泉水、深層水等)、油剤、界面活性剤、金属セッケン、ゲル化剤、粉体、アルコール類、水溶性高分子、皮膚形成剤、樹脂、紫外線防御剤、包接化合物、抗菌剤、香料、消臭剤、塩類、PH調整剤、清涼剤、動物・微生物由来抽出物、植物抽出物、血行促進剤、収斂剤、

30 抗脂漏剤、活性酸素消去剤、細胞賦活剤、保湿剤、角質溶解剤、酵素、ホルモン類、ビタミン類等を加えることができる。好適な成分の具体例としてはそれぞれ以下に示すものが挙げられる。ここで、「誘導体」には形成可能な塩が含まれる。

【0018】油剤としては、基剤の構成成分又は使用性、使用感を良くするものとして、通常の化粧料に使用されるものであれば、天然系油であるか、合成油であるか、或いは、固体、半固体、液体であるか等の性状は問わず、炭化水素類、ロウ類、脂肪酸類、高級アルコール類、エステル油、シリコン油類、フッ素系油類等を使用することができる。例えば、スクワラン、スクワレ

40 ン、セレンシン、パラフィン、パラフィンワックス、流動パラフィン、プリスタン、ポリイソブチレン、マイクロクリスタリンワックス、ワセリン等の炭化水素類、ミツロウ、カルナウバロウ、キャンデリラロウ、鯨ロウ等のロウ類、牛脂、牛脚脂、牛骨脂、硬化牛脂、硬化油、タートル油、豚脂、馬脂、ミンク油、肝油、卵黄油等の動物油、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、ラノリンアルコール、硬質ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、POEラノリンアルコールエーテ

ル、POEラノリンアルコールアセテート、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等のラノリン誘導体、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸、オレイン酸、アラキドン酸、ドコサヘキサエン酸(DHA)、エイコサペンタエン酸(EPA)イソステアリン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等の脂肪酸類、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、パルミチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ヘキサデシルアルコール、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール、ヘキシルドデカノール、オクチルドデカノール、セトステアリルアルコール、2-デシルテトラデシノール等の高級アルコール、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸-2-ヘキシルデシル、アジピン酸-ジ-2-ヘプチルウンデシル、モノイソステアリン酸-N-アルキルグリコール、イソステアリン酸イソセチル、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、ジ-2-エチルヘキサ酸エチレングリコール、2-エチルヘキサ酸セチル、トリ-2-エチルヘキサ酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサ酸ペンタエリスリトール、オクタン酸セチル、オクチルドデシルガムエステル、オレイン酸オレイル、オレイン酸オクチルドデシル、オレイン酸デシル、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、コハク酸-2-エチルヘキシル、ステアリン酸イソセチル、ステアリン酸ブチル、セバシン酸ジイソブチル、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、パルミチン酸イソブチル、パルミチン酸-2-エチルヘキシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、12-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、ミリスチン酸イソブチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸-2-ヘキシルデシル、ミリスチン酸ミリスチル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、ラウリン酸エチル、ラウリン酸ヘキシル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、リンゴ酸ジイソステアリン等のエステル油、アセトグリセライド、トリイソオクタン酸グリセライド、トリイソステアリン酸グリセライド、トリイソパルミチン酸グリセライド、トリ-2-エチルヘキサ酸グリセライド、モノステアリン酸グリセライド、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、トリミリスチン酸グリセライド等のグリセライド油、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジェンポリシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサシロキサン、テトラメチルテトラハイドロジェンシクロテトラシロキサン、ステアロキシシリコーン等のシリコーン油、シリコーン樹脂、シリコンゴム、パーフルオロポリエーテル、パーフルオロ

デカン、パーフルオロオクタン等のフッ素系油剤等が挙げられる。

【0019】界面活性剤は、油剤等の乳化や可溶化等のために用いられ、アニオン性、カチオン性、非イオン性及び両性の活性剤を用いることができる。

【0020】金属セッケンは、脂肪酸等のアルカリ塩以外の金属塩であり、12-ヒドロキシステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ミリスチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、セチルリン酸亜鉛、セチルリン酸カルシウム、セチルリン酸亜鉛ナトリウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛等が挙げられる。

【0021】ゲル化剤は、系の安定化や使用性、使用感を良くするために用いられ、N-ラウロイル-L-グルタミン酸、 $\alpha$ 、 $\gamma$ -ジ- $n$ -ブチルアミン等のアミノ酸誘導体、デキストリンパルミチン酸エステル、デキストリンステアリン酸エステル、デキストリン2-エチルヘキサ酸パルミチン酸エステル等のデキストリン脂肪酸エステル、ショ糖パルミチン酸エステル、ショ糖ステアリン酸エステル等のショ糖脂肪酸エステル、モノベンジリデンソルビトール、ジベンジリデンソルビトール等のソルビトールのベンジリデン誘導体、ジメチルベンジルドデシルアンモニウムモンモリロナイトクレー、ジメチルジオクタデシルアンモニウムモンモリロナイトクレー等の有機変性粘土鉱物等が挙げられる。

【0022】粉体は、主としてメーキャップ化粧料における着色や皮膚の隠蔽、又は使用感を良くするため等多目的に用いられ、通常の化粧料に使用されるものであれば、その形状(球状、針状、板状、等)や粒子径(煙霧状、微粒子、顔料級等)、粒子構造(多孔質、無孔質等)を問わず、いずれのものも使用することができる。例えば、無機粉体としては、酸化マグネシウム、硫酸バリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、タルク、合成雲母、マイカ、カオリン、セリサイト、白雲母、合成雲母、金雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、ケイ酸、無水ケイ酸、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、含硫ケイ酸アルミニウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、ヒドロキシアパタイト、ハイジライト、モンモリロナイト、ゼオライト、セラミックスパウダー、第二リン酸カルシウム、アルミナ、水酸化アルミニウム、窒化ホウ素等が挙げられ、有機粉体としては、ポリアミドパウダー、ポリエステルパウダー、ポリエチレンパウダー、ポリプロピレンパウダー、ポリスチレンパウダー、ポリウレタン、ベンゾグアナミンパウダー、ポリメチルベンゾグアナミンパウダー、テトラフルオロエチレンパウダー、ポリメチルメタクリレートパウダー、シルクパウダー、ナイロンパウダー、1

2ナイロン、6ナイロン、スチレン・アクリル酸共重合体、ジビニルベンゼン・スチレン共重合体、ビニル樹脂、尿素樹脂、フェノール樹脂、フッ素樹脂、ケイ素樹脂、アクリル樹脂、メラミン樹脂、エポキシ樹脂、ポリカーボネイト樹脂、微結晶繊維粉体、ラウロイルリジン等が挙げられ、有色顔料としては、酸化鉄、水酸化鉄、チタン酸鉄の無機赤色顔料、 $\gamma$ -酸化鉄等の無機褐色系顔料、黄酸化鉄、黄土等の無機黄色系顔料、黒酸化鉄、カーボンブラック等の無機黒色顔料、マンガンバイオレット、コバルトバイオレット等の無機紫色顔料、水酸化クロム、酸化クロム、酸化コバルト、チタン酸コバルト等の無機緑色顔料、紺青、群青等の無機青色系顔料、タール系色素をレーキ化したもの、天然色素をレーキ化したものが挙げられ、パール顔料としては、酸化チタン被覆雲母、酸化チタン被覆マイカ、オキシ塩化ビスマス、酸化チタン被覆オキシ塩化ビスマス、酸化チタン被覆タルク、魚鱗箔、酸化チタン被覆着色雲母等、金属粉末顔料としては、アルミニウムパウダー、銅パウダー、ステンレスパウダー等が挙げられ、その他タール色素、カルミン酸等の天然色素等が挙げられる。これらの粉体を複合化したり、油剤やシリコン、又はフッ素化合物で表面処理を行なっても良い。

【0023】紫外線防御剤は、皮膚を紫外線から守り、美白剤と組合せて用いると有用なものであり、パラメトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル、パラメトキシケイ皮酸イソプロピル、パラメトキシハイドロケイ皮酸ジエタノールアミン塩、ジパラメトキシケイ皮酸-モノ-2-エチルヘキサノ酸グリセリル、メトキシケイ皮酸オクチル、ジイソプロピルケイ皮酸メチル等のケイ皮酸系紫外線吸収剤、2-フェニルベンズイミダゾール-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-硫酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-硫酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2,2',4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-n-オクトキシベンゾフェノン等のベンゾフェノン系紫外線吸収剤、パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸ブチル、パラジメチルアミノ安息香酸-2-エチルヘキシル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラアミノ安息香酸アミル等の安息香酸系紫外線吸収剤、サリチル酸-2-エチルヘキシル、サリチル酸トリエタノールアミン、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸メチル、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸フェニル、サリチル酸アミル、サリチル酸ベンジル、サリチル酸イソプロピルベンジル、サリチル酸カリウム等のサリチル酸系紫外線吸収剤、4-*t*-ブチル-4'-メトキシジベン

ゾイルメタン、4-イソプロピルジベンゾイルメタン、4-メトキシジベンゾイルメタン、4-*t*-ブチル-4'-ヒドロキシジベンゾイルメタン等のジベンゾイルメタン系紫外線吸収剤、メンチル-*O*-アミノベンゾエート、2-フェニル-ベンズイミダゾール-5-硫酸、2-フェニル-5-メチルベンゾキサゾール、3-(4-メチルベンジリデン)カンフル、2-エチルヘキシル-2-シアノ-3,3'-ジフェニルアクリレート、2-エチル-2-シアノ-3,3'-ジフェニルアクリレート、2-(2'-ヒドロキシ-5-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、アントラニル酸メンチル等のアントラニル酸系紫外線吸収剤、ウロカニン酸エチル等のウロカニン酸系紫外線吸収剤、酸化チタン、酸化ジルコニウム、酸化セリウム、酸化亜鉛等の紫外線散乱剤が挙げられる。

【0024】水溶性高分子は、系の安定化や使用性、使用感を良くするために用いられ、又保湿効果を得るためにも用いられる。水溶性高分子の具体例として、アラビアゴム、トラガカント、ガラクトン、グアーガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、寒天、トランスガム、ローカストビーンガム、ガラクトマンナン等の植物系高分子、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン等の微生物系高分子、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等の動物系高分子、デンプン、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等のデンプン系高分子、メチルセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末のセルロース系高分子、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等のアルギン酸系高分子、ポリビニルメチルエーテル、カルボキシビニルポリマー、アルキル変性カルボキシビニルポリマー等のビニル系高分子、ポリオキシエチレン系高分子、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体系高分子、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリルアミド等のアクリル系高分子、ポリエチレンイミン、カチオンポリマー、ペントナイト、ラボナイト、ヘクトライト等の無機系水溶性高分子等がある。また、この中には、ポリビニルアルコールやポリビニルピロリドン等の皮膜形成剤も含まれる。

【0025】細胞賦活剤は、肌荒れの改善等の目的で用いられ、デオキシリボ核酸及びその塩、アデノシン三リン酸、アデノシン二リン酸、アデノシン一リン酸等のアデニル酸誘導体、リボ核酸及びその塩、サイクリックAMP、サイクリックGMP、フラビンアデニンヌクレオチド、グアニン、アデニン、シトシン、チミン、キサンチンその誘導体であるカフェイン、テオフィリン並びに

それらの塩、幼牛血液抽出液、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、トリ等の卵成分、鶏冠抽出物、貝殻抽出物、貝肉抽出物、ローヤルゼリー、シルクプロテイン及びその分解物又はそれらの誘導体、ヘモグロビン又はその分解物、ラクトフェリン又はその分解物、イカスミ等軟体動物抽出物、魚肉抽出物等、哺乳類、鳥類、貝類、昆虫類、魚類、軟体動物類、甲殻類等の動物由来の抽出物、コンドロイチン硫酸、デルマトン硫酸、ヘパラン硫酸、ヘパリン、ケラタン硫酸及びヒアルロン酸等のムコ多糖類またはそれらの塩、コラーゲン、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物などの醗酵代謝産物等の微生物由来の抽出物、アンズ抽出物、イチヨウ抽出物、オタネニンジン抽出物、オオムギ抽出物、オレンジ抽出物、キュウリ抽出物、キウイ抽出物、シイタケ抽出物、スギナ抽出物、センブリ抽出物、タイソウ抽出物、トウガラシ抽出物、ニンニク抽出物、ニンジン抽出物、ブクリョウ抽出物、モモ抽出物、レタス抽出物、レモン抽出物、ユーカリ抽出物、ユリ球根抽出物、ローズマリー抽出物、ヒノキチオール、セファランチン、ブドウ種子油等の植物由来の抽出物、 $\alpha$ -及び $\gamma$ -リノレン酸及びそれらの誘導体、エイコサペンタエン酸及びそれらの誘導体、エストラジオール、エテニルエストラジオール、グリコール酸、クエン酸、乳酸、リンゴ酸、酒石酸、コハク酸、サリチル酸等の有機酸及びそれらの誘導体等が挙げられる。

【0026】活性酸素除去剤は、過酸化脂質生成抑制等の目的で用いられ、スーパーオキシサイドディスムターゼ、マンニトール、ビリルビン、コレステロール、トリプトファン、ヒスチジン、クエルセチン、クエルシトリン、カテキン及びその誘導体、ルチン及びその誘導体、タウリン、チオタウリン、卵殻膜抽出物、没食子酸及びその誘導体、酵母抽出物、霊芝抽出物、ヤシヤジツ抽出物、ゲンノショウコ抽出物、ボタンビ抽出物、メリッサ抽出物、バセリ抽出物、ジコッピ抽出物、レチノール及びその誘導体（パルミチン酸レチノール、酢酸レチノール等）、レチナール及びその誘導体、デヒドロレチナール、カロチン等のカロチノイド等のビタミンA類、チアミン類（チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩）、リボフラビン類（リボフラビン；酢酸リボフラビン等）、ピリドキシン類（塩酸ピリドキシン、ピリドキシンジオクタノエート等）、フラビンアデニンヌクレオチド、シアノコバラミン、葉酸類、ニコチン酸類（ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル等）、コリン類等のビタミンB類；アスコルビン酸等のビタミンC類；エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール、ジヒドロキシスタナール等のビタミンD類；トコフェロール及びその誘導体（ $d$ 1- $\alpha$ （ $\beta$ 、 $\gamma$ ）-トコフェロール、酢酸 $d$ 1- $\alpha$ -トコフェロール、ニコチン酸- $d$ 1- $\alpha$ -トコフェロール、リノール酸- $d$ 1- $\alpha$ -トコフェロール、コハク酸 $d$ 1- $\alpha$ -トコフェロール等）、ユビキノン類等のビタミンE類；ジブチルヒドロキシトルエン及びブチルヒ

ドロキシアニソール等が挙げられる。

【0027】保湿剤としては、エラスチン、フィブロネクチン、ケラチン等のタンパク質またはそれらの誘導体、加水分解物並びにそれらの塩、グリシン、アラニン、バリン、イソロイシン、セリン、スレオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アスパラギン、グルタミン、リジン、ヒスチジン、ヒドロキシリジン、アルギニン、システイン、シスチン、メチオニン、フェニルアラニン、チロシン、プロリン、テアニン、トリプトファン、ヒドロキシプロリン、オルチニン、シトルリン等のアミノ酸及びそれらの誘導体、ソルビトール、エリスリトール、マルチトール、キシリトール、キシロース、トレハロース、イノシトール、グルコース、ペンタエリスリトール、果糖、蔗糖およびその誘導体、デキストリン及びその誘導体、ハチミツ等の糖類、D-パンテノール及びその誘導体、尿素、リン脂質、糖脂質、セラミド、アボカド抽出物、アーモンド抽出物、イナゴマメ抽出物、イネ抽出物、イチゴ抽出物、ウイキョウ抽出物、ウスベニアオイ抽出物、オウレン抽出物、オリーブ油、オドリコソウ抽出物、カカオ脂、カラスムギ抽出物、キズタ抽出物、クマザサ抽出物、クチナシ抽出物、グレープフルーツ抽出物、ゲンチアナ抽出物、ゴボウ抽出物、コボタンヅル抽出物、サボテン抽出物、サボンソウ抽出物、ショウガ抽出物、ショウブ抽出物、ジオウ抽出物、シア脂、シモツケ抽出物、ステビア抽出物、センキュウ抽出物、ゼニアオイ抽出物、タチジャコウソウ抽出物、ツバキ抽出物、トウモロコシ抽出物、トウチウカソウ抽出物、トルメンチラ抽出物、ドクダミ抽出物、バクモンドウ抽出物、ハウチワマメ抽出物、ハママリス抽出物、ハッカ抽出物、ミドリハッカ抽出物、セイヨウハッカ抽出物、バラ抽出物、ヒマワリ抽出物、ヒノキ抽出物、タンポポ抽出物、フキタンポポ抽出物、ブルーネ抽出物、ブッチャーズブルーム抽出物、ベニバナ抽出物、ボラージ油、ホホバ油、ボダイジュ抽出物、マツ抽出物、マロニエ抽出物、マカデミアナッツ油、マルメロ抽出物、ムラサキ抽出物、メドウホーム油、ヤグルマソウ抽出物、ユズ抽出物、ライム抽出物、ラベンダー抽出物、リンドウ抽出物、リンゴ抽出物等が挙げられる。

【0028】血行促進剤としては、ノニル酸ワレニルアミド、カプサイシン、ジンゲロン、カンタリスチンキ、イクタモール、 $\alpha$ -ボルネオール、イノシトールヘキサニコチネート、シ克蘭デレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ペラバミル、 $\gamma$ -オリザノール等が挙げられる。

【0029】皮膚収斂剤としてはタンニン酸等、抗脂漏剤としてはチアントロール等、酵素としてはリパーゼ、パパイン等が挙げられる。

【0030】

【実施例】次に参考例、試験例及び実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらになんら制

約されるものではない。

【0031】参考例1 カムカム抽出物の製造

カムカム（フトモモ科の果樹である学名 *Myrciaria Dubia*）の果実を乾燥したもの30gに、含水濃度80vol%エチルアルコール100mLを加え、室温にて3日間抽出を行った後濾過してカムカム抽出物を得た（乾燥固形分3.0%）。

【0032】参考例2 植物抽出物の製造

カンゾウ（日局）、クジン（クララ）（日局）、エイジツ（日局）、シャクヤク（日局）、ヨクイニン（日局）の各10gにそれぞれ70vol%エチルアルコール100mLを加え、室温で時々攪拌しながら3日間抽出し、濾過して各植物抽出物を得た（乾燥固形分はそれぞれ2.0%、1.0%、1.0%、1.1%、0.8%）。

【0033】試験例1 チロシナーゼ活性阻害試験

下記方法により、参考例1で得たカムカム抽出物及び参考例2で得た植物抽出物について、単独またはそれらを組み合わせた試料のチロシナーゼ活性阻害率を調べた。\*

$$\text{チロシナーゼ活性阻害率 (\%)} = \frac{\text{OD}_S - \text{OD}_{SHE}}{\text{OD}_B - \text{OD}_{HE}} \times 100$$

【0036】OD<sub>S</sub>：試料及び酵素添加時の吸光度

OD<sub>B</sub>：酵素を添加し試料無添加の時の吸光度

OD<sub>HE</sub>：酵素不活性時の吸光度

OD<sub>SHE</sub>：試料と不活性化した酵素を添加した時の吸

\*すなわち、各試料に酵素溶液〔シグマ社製、28,000単位のチロシナーゼ10mgを0.1mol/Lリン酸緩衝液（pH6.8）20mLに溶解したもの〕0.1mLを加え、さらに0.1mol/Lリン酸緩衝液（pH6.8）を加え4.0mLとし、これを25℃にて10分間インキュベートした。

【0034】次いで、これにあらかじめ25℃に保ておいた基質溶液〔L-DOPA（東京化成社製）198.0mgを0.1mol/Lリン酸緩衝液（pH6.8）100mLに溶解したもの〕1.0mLを加え、10分間反応せしめた。反応後、475nmにおける吸光度（OD<sub>S</sub>）を測定した。同様に、加熱失活させた前記酵素を用いて反応させた時の吸光度（OD<sub>HE</sub>）、酵素を添加し試料無添加の時の吸光度（OD<sub>B</sub>）及び試料と不活性化した酵素を添加した時の吸光度（OD<sub>SHE</sub>）を測定し、数式1よりチロシナーゼ活性の活性阻害率を算出し、この結果を表1に示す。

【0035】

【数1】

$$\text{チロシナーゼ活性阻害率 (\%)} = \frac{\text{OD}_S - \text{OD}_{SHE}}{\text{OD}_B - \text{OD}_{HE}} \times 100$$

※光度

【0037】（結果）

【表1】

試料添加量 (ml)	1	2	3	4	5	6	7
カムカム抽出物*1	0.1				0.1	0.1	0.1
カンゾウ抽出物*2		0.01			0.01		
エイジツ抽出物*2			0.02			0.02	
ヨクイニン抽出物*2				0.2			0.2
チロシナーゼ 活性阻害率 (%)	42.0	46.0	15.0	32.1	95.2	70.3	83.4

【0038】\*1 参考例1で製造したもの

\*2 参考例2で製造したもの

【0039】表1から明らかなごとく、カムカム抽出物と美白剤を組み合わせた場合には、カムカム抽出物または美白剤を単独で用いた場合より高いチロシナーゼ活性阻害効果を示した。

【0040】試験例2 細胞培養によるメラニン生成抑制試験

下記方法により、参考例1で得たカムカム抽出物及び参考例2で得た植物抽出物について、単独またはそれらを組み合わせた試料のメラニン生成抑制作用を調べた。培養細胞には、マウス由来のB16メラノーマ培養細胞を用いて、2枚の6穴シャーレに培地を適量とり、B16メラノーマ細胞を播種し、37℃、二酸化炭素濃度5%中にて静置した。翌日、各試料を最終濃度が0（対照）、1、10、100μg/mLとなるように検体調製液を添加し混和した。培養5日目に培地を交換し、再

度検体調製液を添加した。翌日、培地を除き、1枚のシャーレについて、細胞をリン酸緩衝液にて洗浄した後回収し、B16メラノーマ培養細胞の白色化度を以下の基準にて評価した。

【0041】（判定基準）

++：対照に対して極めて白色である。

＋：対照に対してあきらかに白色である。

±：対照に対してやや白色である。

－：対照と同じ黒色である。

【0042】残りの1枚のシャーレについて、細胞をホルマリン固定後、1%クリスタルバイオレット溶液に添加し染色した。各検体濃度に対する生存細胞率をモノセレーター（オリンパス社製）で測定した。以上の結果を表2に示す。

【0043】（結果）

【表2】



試料添加量 (ml)	1	2	3	4	5	6	7
カムカム抽出物*1	0.05				0.05	0.05	0.05
エイジツ抽出物*2		0.01			0.01		
カンゾウ抽出物*2			0.005			0.005	
クジン抽出物*2				0.05			0.05
白色化度	±	±	±	±	++	++	++
細胞生育率 (%)	80	80	90	89	88	98	91

【0044】\*1 参考例1で製造したもの

\*2 参考例2で製造したもの

【0045】表2から明らかなごとく、カムカム抽出物と美白剤を組み合わせた場合には、カムカム抽出物または美白剤を単独で用いた場合より高い美白作用を示し、かつB16メラノーマ培養細胞に対し毒性が低いことが認められた。

【0046】試験例3 色素沈着抑制試験

有色モルモット（各群15匹）の背部を剃毛し、麻酔下紫外線を照射した。紫外線照射は、東芝（株）製FL20S・BLBランプとFL20S・E30ランプを3本\*

\*ずつ同時に照射し、紫外線量は $4.8 \times 10^6 \text{ erg/cm}^2$ とした。紫外線照射24時間前と照射直後及び照射12時間後、24時間後にモルモット背部の4ヶ所に、表3に示した組成及び下記製法で調製した試料を0.2gずつ塗布した。但し、照射前には塗布部位を温水でよく洗浄した。照射7日後に色素沈着の程度を観察し、以下に示す規準で評価した。この結果を表3に示す。

【0047】（組成及び結果）  
【表3】

	成分 (%)	本発明品	比較品		
		1	1	2	3
(1)	ミツロウ	6.0	6.0	6.0	6.0
(2)	セタノール	5.0	5.0	5.0	5.0
(3)	還元ラノリン	5.0	5.0	5.0	5.0
(4)	スクワラン	30.0	30.0	30.0	30.0
(5)	硬油型モノステアリン酸グリセリル	4.0	4.0	4.0	4.0
(6)	ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート (20E. O.)	2.0	2.0	2.0	2.0
(7)	カムカム抽出物*1	1.0	1.0	—	—
(8)	ヨクイニン抽出物*2	1.0	—	1.0	—
(9)	防腐剤	適量	適量	適量	適量
(10)	香料	適量	適量	適量	適量
(11)	精製水	残量	残量	残量	残量
色素沈着抑制効果	著効	9	4	0	0
	有効	4	7	2	0
	やや有効	1	3	1	1
	無効	1	1	12	14

【0048】\*1 参考例1で製造したもの

\*2 丸善製薬社製

【0049】（製法）

A. 成分(1)～(6)、(9)を混合し、加熱して70℃に保つ。

※ B. (11)の一部を加熱して70℃に保つ。

C. AにBを加え、混合した後、冷却して(7)、(8)及び(10)を加えて混合し、クリームを得た。

【0050】

（色素沈着抑制効果の評価規準）

<評価> <内容>

著効 色素沈着が全く認められない。

有効 色素沈着がごく僅かに認められる。

やや有効 色素沈着が認められるが、非照射部位との境界が不明瞭。

無効 色素沈着が認められ、非照射部位との境界が鮮明。

【0051】表3の結果に示される如く、カムカム抽出物とヨクイニン抽出物を組合せた本発明品1の皮膚外用剤は、これらを皮膚に適用することにより、紫外線による色素沈着を効果的に抑制することが明らかとなった。

【0052】実施例1

\*

\*クリーム：表4に示す組成及び下記製法でクリームを調製し、カムカム抽出物と美白剤を組み合わせた場合の美白効果を調べた。この結果を表4に示す。

【0053】（組成及び結果）

【表4】

	成分(%)	本発明品	比較品			
		2	4	5	6	
(1)	ミツロウ	6.0	6.0	6.0	6.0	
(2)	セタノール	5.0	5.0	5.0	5.0	
(3)	還元ラノリン	5.0	5.0	5.0	5.0	
(4)	スクワラン	30.0	30.0	30.0	30.0	
(5)	親油性モノステアリン酸グリセリル	4.0	4.0	4.0	4.0	
(6)	ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート(20E.O.)	2.0	2.0	2.0	2.0	
(7)	カムカム抽出物*1	1.0	1.0	—	—	
(8)	グルタチオン*2	3.0	—	3.0	—	
(9)	防腐剤	適量	適量	適量	適量	
(10)	香料	適量	適量	適量	適量	
(11)	精製水	残量	残量	残量	残量	
美白効果	有効	9	3	2	0	
	やや有効	5	9	8	1	
	無効	1	3	5	14	

【0054】\*1 参考例1で製造したもの

\*2 田辺製薬社製

【0055】（製法）

A. 成分(1)～(6)、(9)を混合し、加熱して70℃に保つ。

B. 成分(11)の一部を加熱して70℃に保つ。

C. AにBを加え、(7)、(11)の残部で溶解した(8)、(10)を混合した後、冷却してクリームを得た。

【0056】（試験方法）被験クリーム1品につき27～54才の女性15名をパネルとし、毎日朝と夜の2回、12週間にわたって洗顔後に被験クリームの適量を顔面に塗布した。塗布による美白効果を以下の基準によって評価した。

【0057】（評価基準）

<評価> <内容>

有効 肌のくすみが目立たなくなった。

やや有効 肌のくすみがあまり目立たなくなった。

無効 使用前と変化なし。

【0058】表4の結果に示される如く、カムカム抽出物とグルタチオンを組合せた本発明品2の皮膚外用剤

30 は、これらを皮膚に適用することにより、肌の「くすみ」等の発生の防止、改善することができ、美しい肌とすることが明らかとなった。

【0059】実施例2. 化粧水

（処方）

(%)

(1) グリセリン 5.0

(2) 1,3-ブチレングリコール 6.5

(3) ポリオキシエチレン(20E.O.)ソルビタンモノラウリン酸エステル 1.2

(4) エチルアルコール 8.0

(5) カムカム抽出物\*1 1.0

(6) ビャクレン抽出物\*2 0.01

(7) 防腐剤 適量

(8) 香料 適量

(9) 精製水 残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 サントリー社製

【0060】（製法）

A. 成分(3)、(4)、(7)及び(8)を混合溶解する。

50 B. 成分(1)、(2)、(5)、(6)及び(9)を

混合溶解する。

C. AとBを混合して均一にし、化粧水を得た。

【0061】実施例3. 乳液

(処方)	(%)
(1) ポリオキシエチレン (10 E. O.)	1.0
ソルビタンモノステアレート	
(2) ポリオキシエチレン (60 E. O.)	0.5
ソルビットテトラオレエート	
(3) グリセリルモノステアレート	1.0
(4) ステアリン酸	0.5
(5) ベヘニルアルコール	0.5
(6) スクワラン	8.0
(7) カムカム抽出物*1	5.0
(8) アスタキサンチン*2	0.1
(9) 防腐剤	0.1
(10) カルボキシビニルポリマー	0.1
(11) 水酸化ナトリウム	0.05
(12) エチルアルコール	5.0
(13) 精製水	残量
(14) 香料	適量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 シグマ社製

【0062】(製法)

A. 成分(11)～(13)を加熱混合し、70℃に保つ。

B. 成分(1)～(6)、(8)、(9)を加熱混合し、70℃に保つ。

C. BにAを加えて混合し、均一に乳化する。

D. Cを冷却後(7)、(10)、(14)を加え、均一に混合して乳液を得た。

【0063】実施例2及び実施例3はいずれも経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより、日焼けによる肌の「くすみ」やシミやソバカスを防止し、透明感のある美しい肌にする化粧水及び乳液であった。

【0064】実施例4. 軟膏

(処方)	(%)
(1) ステアリン酸	18.0
(2) セタノール	4.0
(3) トリエタノールアミン	2.0
(4) グリセリン	5.0
(5) カムカム抽出物*1	1.0
(6) ゴカヒ抽出物*2	0.5
(7) ブドウ抽出物*3	0.1
(8) 精製水	残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 丸善製薬社製

\*3 キッコーマン社製

【0065】(製法)

A. 成分(3)、(4)及び(8)の一部を加熱混合し、75℃に保つ。

B. 成分(1)及び(2)を加熱混合し、75℃に保つ。

C. AをBに徐々に加える。

D. Cを冷却しながら(8)の残部で溶解した(5)、(6)、(7)を加え、軟膏を得た。

【0066】実施例4は経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより、肌の「くすみ」やシミやソバカスを防止し、透明感のある美しい肌にする軟膏であった。

【0067】実施例5. バック

(処方)	(%)
(1) ポリビニルアルコール	20.0
(2) エチルアルコール	20.0
(3) グリセリン	5.0
(4) カオリン	6.0
(5) カムカム抽出物*1	0.05
(6) マイカイカ抽出物*2	0.2
(7) 防腐剤	0.2
(8) 香料	0.1
(9) 精製水	残量

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 丸善製薬社製

【0068】(製法)

A. 成分(1)、(3)、(4)及び(9)を混合し、70℃に加熱し、攪拌する。

B. 成分(2)及び(7)を混合する。

C. 上記Bを先のAに加え、混合した後、冷却して(5)、(6)及び(8)を均一に分散してバックを得た。

【0069】実施例5は経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより、肌の「くすみ」やシミを防止し、透明感のある美しい肌にするバックであった。

【0070】実施例6

リキッドファンデーション:

(処方)	(%)
(1) ラノリン	7.0
(2) 流動パラフィン	5.0
(3) ステアリン酸	2.0
(4) セタノール	1.0
(5) パラメトキシケイ皮酸	3.0
-2-エチルヘキシル	
(6) 4-tert-ブチル-4'-メトキシ	1.0
ジベンゾイルメタン	
(7) グリセリン	5.0
(8) トリエタノールアミン	1.0
(9) カルボキシメチルセルロース	0.7
(10) 精製水	残量
(11) マイカ	15.0
(12) タルク	6.0
(13) 着色顔料	6.0
(14) カムカム抽出物*1	0.01

(15) ヨクイニン抽出物\*2

0.5

\*を得た。

(16) 香料

適量

【0072】実施例6は経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより、日焼け等による肌の黒化やシミやソバカスを防止するリキッドファンデーションであった。

\*1 参考例1で製造したもの

\*2 参考例2で製造したもの

【0071】(製法)

A. 成分(1)～(6)を混合溶解する。

B. Aに成分(11)～(13)を加え、均一に混合し、70℃に保つ。

C. 成分(7)～(10)を均一に溶解し、70℃に保つ。

10

D. BにCを添加して、均一に乳化する。

E. Dを冷却後、成分(14)～(16)を添加してリキッドファンデーション

\*

【発明の効果】本発明によれば、カムカム抽出物と美白剤を含有することにより、美白剤が本来有する性能を十分に発揮させることができる。すなわち、安定で且つ優れた美白作用を有するため、日焼けによる色素沈着に高い抑制効果を発揮し、日焼けなどによる皮膚の黒化、シミ、ソバカスの防止・改善等に有効である。このように、本発明の組成物は、美白剤の本来有する性能を十分に発揮させることができるため、美容や医療において極めて有用なものである。

---

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA082 AA111 AA112 AA121  
 AB032 AB432 AB442 AC022  
 AC072 AC102 AC122 AC212  
 AC242 AC342 AC422 AC442  
 AC471 AC491 AC542 AC581  
 AC841 AD092 AD112 AD212  
 AD272 AD411 AD512 AD621  
 AD622 CC02 CC04 CC05  
 CC07 CC12 DD22 DD23 DD31  
 EE01 EE12 EE16 FF01 FF05